

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-129	実施計画番号	171	事業開始年度	
事務事業名	外国青年招致事業			事業終了年度	
担当課名	指導課			事務の種類(選択)	
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	社会のグローバル化によって外国語によるコミュニケーション能力、異文化を理解・尊重し、共生しようとする態度等が求められている中、国の「語学指導等を行う外国青年招致事業(略称JETプログラム)」を利用して、外国語指導助手(ALT)を市内小・中学校に派遣している。平成3年に1名体制でスタートし、平成22年からは、小学校における外国語活動実施に向けて、4名体制となり、平成26年度8月からは6名体制で実施				
事務事業の目的	ALTを小・中学校に派遣することにより、外国語によるコミュニケーション能力を高め、異文化を理解・尊重し共生しようとする意欲や態度を育て、国際化に対応できる人材の育成を図る。				
実施状況	ALTを、市内全小・中学校に派遣し、英語及び外国語活動の授業支援などを行った。長期休業中には、中学校英語弁論大会の指導、イングリッシュ・デイの企画運営、教員研修の補助などにあたった。市役所他部局からの英訳依頼にも対応することがある。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	20	20
	人件費(千円)	1,080	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	4	0	0
	活動日数(日)	245	0	0
非常勤職員	人件費(千円)	9,635	0	0

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		5,635	28,960	29,700

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		ALTの人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	4(7月まで) 6(8月から)	6	6
	活動指標名②		派遣校数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			校	26	26	26
成果指標	成果指標名①		派遣回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	950	1,000	1,000
			実績値	862	1,079	
			達成度(%)	91%	108%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">グローバル社会対応する人材の育成という点から、妥当な事業である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	グローバル社会対応する人材の育成という点から、妥当な事業である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
グローバル社会対応する人材の育成という点から、妥当な事業である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2							
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国としも推進している分野の一つである。27年度は事業が順調に推移し、派遣回数についても目標値も目標を上回った。 次年度も効率のよい派遣計画を立て、支援の充実を図る。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国としも推進している分野の一つである。27年度は事業が順調に推移し、派遣回数についても目標値も目標を上回った。 次年度も効率のよい派遣計画を立て、支援の充実を図る。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国としも推進している分野の一つである。27年度は事業が順調に推移し、派遣回数についても目標値も目標を上回った。 次年度も効率のよい派遣計画を立て、支援の充実を図る。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2							
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国から交付税交付金によりALT賃金の8割が支給されること、ALTの活動状況を指導課が直接把握して支援できるメリットがあることの2点を考慮すると、現在のJETプログラムの利用が適切である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	国から交付税交付金によりALT賃金の8割が支給されること、ALTの活動状況を指導課が直接把握して支援できるメリットがあることの2点を考慮すると、現在のJETプログラムの利用が適切である。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	国から交付税交付金によりALT賃金の8割が支給されること、ALTの活動状況を指導課が直接把握して支援できるメリットがあることの2点を考慮すると、現在のJETプログラムの利用が適切である。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市内全小・中学校に派遣している。また、すべての児童生徒がALTと触れ合う機会を持てるように、特別支援学級、病院学級、教育相談室などへも派遣している。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市内全小・中学校に派遣している。また、すべての児童生徒がALTと触れ合う機会を持てるように、特別支援学級、病院学級、教育相談室などへも派遣している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市内全小・中学校に派遣している。また、すべての児童生徒がALTと触れ合う機会を持てるように、特別支援学級、病院学級、教育相談室などへも派遣している。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
<b>現在の適性</b>					20 / 20	<b>改善の余地</b>	0 / 20			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現在の学習指導要領の目的や趣旨を踏まえ、さらには平成32年度に予定されている小学校英語科の導入に向けて、ALTによる授業支援を一層充実させていく必要がある。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

ALTの十和田市への定着を図り、継続的に子どもたちへの興味関心の喚起ができるような指導を行えるようにする。